

女性農業者の経営参画に関する研究動向

—経営参画要因の整理と参画促進に向けた課題—

研究員 佐藤 真弓

1. はじめに

5度目の「男女共同参画基本計画」が閣議決定された昨年、農林水産省においては「女性の農業における活躍推進に向けた検討会」が開催されました。この検討会では、女性農業者を政策対象として初めて位置付けた「農山漁村における女性の中長期ビジョン」（1992年）以降約30年の農村女性政策を総括し、『女性農業者が輝く農業創造のための提言～見つけて、位置づけて、つなげる～』と題する報告書を公表しています。

本稿では、その中でも取り上げられている、重要な政策課題の一つである女性農業者の経営参画に関する研究動向を整理します。近年、女性農業者は農業経営の新たな担い手として期待されています（日本農業経営学会編・津谷好人責任編集，2012：21-62）。しかし、これまで我が国の家族農業経営においては、一般に一人の男性経営主によって経営の意思決定がなされ、その中で女性農業者の評価や位置付けは不明瞭でした（原・大内，2012他）。こうした状況の中、農林水産省では女性農業者の地位向上や経営参画促進に向けた取組を推進してきました（川手，2012）。

その効果もあり、今では、女性農業者の経営への関わり方は様々です。農作業に従事するのみで経営には直接関与しないケースだけではなく、女性農業者自身が経営主となったり、家族とともに経営を部分的に担う形で経営参画したりする事例もみられます。

以下では、どのような要因が女性農業者の経営参画状況に影響を与えているのかを、経営参画要因に関する先行研究から、能力形成・学習機会、農業経営の変化、家族関係、就農経緯の4点に整理します。

2. 女性農業者の経営参画要因

能力形成・学習機会については、非農業分野での就業経験や女性農業者によるネットワークの構築、日常的な作業従事が経営参画を促進する可能性が示されています。片倉（2007）は、非農業分野での就業経験が女性の販売部門や財務部門への参画を後押ししている実態を明らかにしています。原（（福与）2009：164-180）は、女性農業者によるネットワークの構築に、農業技術情報や女性農業者としてのロールモデルとの出会いを提供する役割を見いだし

ています。また、農業者夫婦間での意思決定の現状を分析した藤本（2014）は、夫から妻へ生産管理の権限が委譲される背景には、日常的な作業従事を通じた技術の習得があると指摘しています。

農業経営の変化については、その合理化や近代化が女性の経営参画を促進する契機となることが指摘されています。これらの研究では、経営の合理化が図られた経営ではそうでない経営に比べ女性の意思決定への参加割合が高い傾向にあることや（崔・木村・川村，2000）、生活と経営の分離水準が高まることで女性の経営管理への参加率が高まること（崔・木村・薛，2002）などが質問紙調査や事例分析から明らかになっています。

家族関係については、その変化が女性の経営参画を促す可能性が示されています。川手（2015）は1990年頃から女性が農業の担い手として社会的に認知されはじめた背景の一つには家族関係の変化、すなわち親子関係を重視する直系家族から夫婦さらには個人を重視する近代家族への変化があると指摘しています。加えて、家族経営協定の締結を通じた生活及び経営における役割分担の明確化が、施設園芸や果樹などの先進的経営を中心に、女性の就農意欲の向上や経営参画の促進に結びついている実態が明らかにされています（川手・西山，1998）。

就農経緯については、リーダー層のキャリア形成や女性農業経営主による経営課題の視点から分析が進められています。原（2010）は、リーダー層の女性農業者においては就農経緯の違いが就農前後の学習機会や経営内での役割分担などに影響を与えることを明らかにしています。また女性農業経営主を分析対象とした原・西山（2015）は、女性が農業経営を行う上での課題を資産、体力、農業技術、地域社会におけるネットワーク、家事育児負担に分け、女性農業経営主がそれらの課題を就農経緯や経営形態の特徴に応じて克服している現状を整理しています。

3. 女性農業者の経営参画促進に向けた研究課題

女性農業者の経営参画は、本人の意思や意欲だけでなく、能力形成・学習機会、農業経営の変化、家族関係、就農経緯が影響していることが先行研究で明らかになっています。しかし経営参画促進に向

け、残された研究課題も少なくありません。

それは第1に、先に示した四つの経営参画要因と参画状況との因果関係や、要因同士の影響関係についての分析を行うことです。これらについて、既存研究では部分的な解明にとどまっています。

第2に、若い世代や非リーダー層の女性を分析対象とした研究です。先行研究では、農村女性政策の展開に呼応した、現在の高齢世代に該当するリーダー層を主な分析対象としてきました。近年、農村女性活動の世代間継承や女性農業者内での格差拡大が課題として指摘される中で（大内・原，2012、天野・粕谷，2008）、幅広い世代を対象とした女性農業者の現状把握が求められます。

第3に、女性農業者の参画による経営内容の変化やその条件に関する定量的な研究です。これらの点に関して、農林業センサスでは2015年調査から農家世帯員の経営参画状況について把握する項目が新たに設けられました（佐藤，2018）。分析の限界はあるものの¹⁾、農業分野を対象としたジェンダー統計分析を行う環境が整いつつあります（粕谷，2017）。

最後に、女性農業者の経営参画は個々人が農業経営において能力を発揮し、互いにやりがいをもって働くための手段と言えます。そのため理想的な経営参画のあり方は一様ではありません。女性農業者の経営参画とはどのような状態を指すのか。それはどのような条件のもとで成り立つのか。経営参画に関する概念の再検討も今後の研究課題と言えます。この点について、農業者夫婦の「対等性」に関する現状と課題を分析した原（2012）の研究が示唆に富んでいます²⁾。女性農業者の経営参画促進は日本農業の持続的発展と不可分な課題であり、この分野における研究の更なる活性化が期待されます。

注1) 例えば、農林業センサスでは各世帯員がどのように経営に参画しているのかという経営参画の質的な側面を把握することはできません。

2) この他に、男性農業者を対象に農業の「おもしろさ」についてインタビューを行った森・長嶋（2003）も農業者夫婦の関係を考えるヒントになります。

【文献リスト】

天野寛子・粕谷美砂子（2008）『男女共同参画時代の女性農業者と家族』ドメス出版。
崔肅京・木村伸男・川村保（2000）「農業経営における女性の役割」『農村生活研究』44（2）：43-51。
崔肅京・木村伸男・薛春玲（2002）「農業経営における女性の地位－生活と経営の分離を通じて－」『農業経営研究』40（2）：118-123。

原（福与）珠里（2009）『農村女性のパーソナルネットワーク』中央農業総合研究センター。
原珠里（2010）「女性農業者のキャリア形成の特徴」『関東東海農業経営研究』100：105-110。
原珠里（2012）「農業者夫婦における『対等性』の現状と課題」『農村生活研究』56（1）：2-15。
原珠里・大内雅利（2012）「農村社会におけるジェンダー関係への視角」日本村落研究学会企画、原珠里・大内雅利編『農村社会を組みかえる女性たち－ジェンダー関係の変革に向けて－』農文協：11-30。
原珠里・西山未真（2015）「女性農業経営主の就農経緯と経営の特徴に関する試論」『農村研究』120：1-14。
藤本保恵（2014）「農業経営における女性の経営参画－JAしもつけ栃木地区トマト部会農家を対象として－」李哉法・内山智裕・鈴村源太郎・八木洋憲編『農業経営学の現代的眺望』日本経済評論社：85-101。
粕谷美砂子（2017）「ジェンダー統計視点からみる『2015年農林業センサス』」『農業と経済』83（5）：30-38。
片倉和人（2007）「キャリアを生かして経営発展に貢献する経営参画期の女性農業者」『農村生活総合調査研究事業報告書1』4-16。
川手督也（2012）「農村女性関連施策の展開と家族経営協定」日本村落研究学会企画、原珠里・大内雅利編『農村社会を組みかえる女性たち－ジェンダー関係の変革に向けて－』農文協：31-68。
川手督也（2015）「農業経営における家族関係の変容と企業形態」『農業経営研究』53（1）：8-18。
川手督也・西山未真（1998）「家族経営協定の効果に関する考察－締結前後の比較分析－」『村落社会研究』5（1）：21-32。
森美春・長嶋俊介（2003）「家族経営男性農業者の農業・農家・経営観－農業の“おもしろさ”に対する感じ方からの専業農家経営主体17事例の分析－」『日本家政学会誌』54（4）：233-244。
日本農業経営学会編・津谷好人責任編集（2012）『農業経営研究の軌跡と展望』農林統計出版。
大内雅利・原珠里（2012）「ジェンダー関係を組みかえるということ－農村社会の現状と課題－」日本村落研究学会企画、原珠里・大内雅利編『農村社会を組みかえる女性たち－ジェンダー関係の変革に向けて－』農文協：209-228。
佐藤真弓（2018）「家族農業における女性の経営参画の現状」『日本農業・農村構造の展開過程－2015年農業センサスの総合分析－』115-125。